

# ヒラメの入網時期と水温の関係の検討

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部

## 1 部門名

水産業－資源管理－底びき網

## 2 担当者名

有賀陸・寺本航

## 3 要旨

ヒラメは一般に夏～冬季に沿岸から沖合に移動するとされており、近年ヒラメの漁獲盛期が遅れているとの情報があり、沖へ移動する要因の解明が求められた。

そこで、2019～2023年の9月～12月を対象に、いわき市漁協所属小型底びき網におけるヒラメの日別漁獲量と水温との関係について検討した。近年、福島県海域における表面水温の上昇により鉛直混合が遅れる可能性を考え、表面水温と底水温の差（以下、水温差）に着目し解析した結果、水温差が縮小することでヒラメが沖へ移動する可能性が示された。なお、本解析の水温は国立研究開発法人水産研究・教育機構が運営する、FRA-ROMS IIの再解析値を使用した。

(1) 日別漁獲量に対するクラスター解析の結果、近年のグループ(2022～2023年)と過去のグループ(2019～2022年)に分かれ、近年と過去で漁獲盛期が変化している可能性が考えられた。なお、2022年3月まで試験操業期間であり、操業を拡大している最中であったため、日別漁獲量は9～12月の総漁獲量に対する割合として標準化した。

(2) 漁獲量と水温差とについて解析した結果、水温差が縮小（本解析は3℃を指標とした）すると漁獲量が増加することが示唆され、水温差が縮小するとヒラメが沖に移動している可能性が考えられた(図1)。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究機関 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 カレイ類資源管理手法の開発

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 提供：国立研究開発法人水産研究・教育機構 FRA-ROMS II（改良版我が国周辺の海況予測システム）水温解析値
- (2) 有賀陸，福島県海域の長期水温変動解析，令和5年参考となる成果

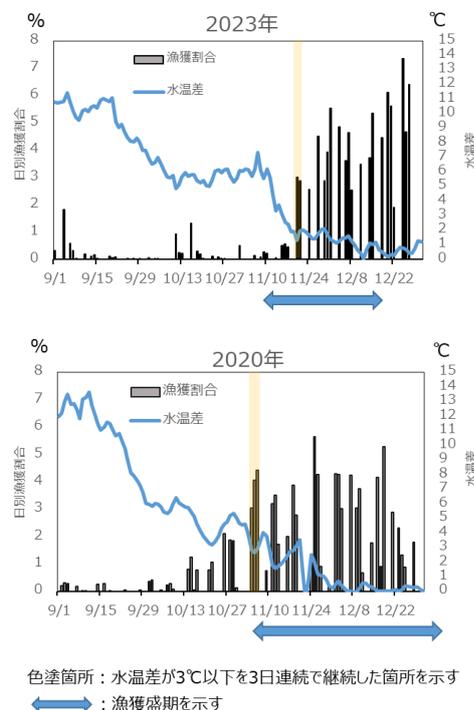


図1 標準化した日別漁獲量と水温差との関係 (2020年と2023年の例)